

元留学生の就職体験報告

日本人と同じ教育を／周慧氏

約50社に応募

私は以前、大手電機メーカーに勤務していたが、今は転職してアメリカのアクセルリス社で働いている。(博士課程修了後は)中国で働きたかったが、現状を見て難しいと判断。博士課程2年目の頃から日本人と同様に就職活動をした。



その際には、50社ほどの企業に応募し、いろいろな会社で面接や筆記試験を受けた。博士なので、中小企業は就職しにくいと考え、大手企業をメインに活動した。約半年かけて就職活動して就職し、いろいろ失敗もしながら今に至っているという気がする。就職活動中に一番(強く)感じたことは、やはり自分が就職するまでの準備が重要だということ。私は研究職なので、自らの論文発表のアピールは勿論、学生時代にしていた東北地域の中国人留学生会長などの社会活動もアピール(材料)になった。

小規模の企業で自由に活動

最初に日本の会社で働き、それからアメリカ企業に転職したわけだが、日本企業にいたときは研究開発の部署で、自分の成績や研究成果が会社にどういう風に役立つとかか利益について考えていなかった。また、規模の大きい企業だったため、なかなか部署異動は難しかった。特に(スペシャリティーのある)博士を持っている人は、留学生に限らず異動するのが難しく、それが私にとって問題の一つだった。今の会社は規模が小さいこともあり、自由でいろいろなことができる。現在、技術営業やマーケティング、営業利益も見ている。大学に対しては、留学生も日本人の学生と同様に教育して欲しいと考えている。留学生を特別な存在としてではなく教育して欲しい。

〈プロフィール〉

Hui ZHOU (しゅう・けい) アクセルリス勤務。中国内モンゴル自治区出身。1996年来日。東北大学大学院に入学後、2004年博士号取得(同大学院物質科学専攻)。大手電機メーカーでの研究職を経て、現在の会社に転職。アジア・太平洋地域のプレ・セールス、ポスト・セールス、トレーニングを担当。

足りない留学生向け就職情報／ローラ・ソブリン氏

SPIへの対応で苦労

(日本での)就職活動で難しかったのは、SPI(一般常識試験)の勉強と受験だった。元々、SPIは大きな障壁になると思う、1年生の夏から問題集を買って勉強に励んだ。だが、いくら勉強しても点数が上がらず、日本人に比べ、回答するスピードも遅かった。そのため、競争の激しい企業ではSPI試験にうまく対応できずに落ちてしまうことがほとんどだった。



特に大企業の多くは、SPIで次のステップに進む人数を大きく絞り込む。最初の段階でSPIの結果を重視してしまうと、特に外国人留学生に関しては、学生の能力や性格などを正確に把握できずに、優秀な留学生を採用することができなくなってしまうのではないだろうか。結果として、SPIの苦手な留学生は、自分をより重要視してくれる中小企業に魅力を感じるようになると思う。

就職活動の情報収集が困難

就職活動についての情報収集にも苦労した。日本人の学生と同じように『リクナビ』や『毎日ナビ』『日経ナビ』などを通じてエントリー・シートを送り、説明会や面接を予約した。そこで一番足りなかったのは、外国人留学生向けの就職ナビサイトがなかったこと。例えば「留学生募集」という検索ワードを入れても、マッチする企業はとても少なかった。また、リクルート社には、『リクナビ海外大生』というサイトがあるが、それは海外に留学した日本人学生のためのサイトであり、日本で勉強する外国人留学生にはほとんど役に立たない。

日本の大学・大学院で知識や能力を身につけた留学生を募集する企業が集まるサイトがなかったために、就職したい企業を見つけるのに苦労した。今後、グローバル化が進み、日本で勉強して就職活動を行う留学生が増えることも考えられるので、留学生向けの就職サイトをつくる必要があると思う。また、大学のキャリアセンターで自分の履歴書やエントリー・シートを見てもらったが、留学生が苦労していることを理解してくれる専門家がいなかった。(本当は)エントリー・シートの日本語(の中身)も直して欲しかったのだが、そこまでのサポートはなかった。

次に、実際に日本で働いてみて感じたことについて話したい。実際に働いてから大変だったのは、2カ月目から始まった電話対応。丁寧な言葉が出てこなかったり、お客様の会社名を3回聞いても聞き取れなかったりして、お客様に変な印象を与えたり、社内の人に伝言ミスをしてしまった。このため、上司と会社の取締役と相談して、取引先の名前になれるまであまり電話に出ないようにしている。今でも日本語でコミュニケーションをとるときに苦労しているが、だんだん慣れてきた。早く電話でのコミュニケーションに対応できるようになりたい。

平等で風通しがいい会社

(逆に)留学生として就職したにも関わらず、良かったと感じたことが三つある。一つ目は、電話対応以外、日本人の他の新人と同じように扱われたこと。二つ目は会社の男女平等で、当社では男女を問わず新人は来客にお茶を出し、朝の掃除当番に参加する。「女性だからこういう仕事だ、男性だからこういう仕事だ」という区別は一切ない。最後は、自分の声が上まで届くこと。もしも、会社の仕事の進め方などで改善点があると思えば、ミーティングなどで自分の視点を説明。皆を納得させることができれば、新しい方法が実行される。

〈プロフィール〉

Laura SOBRIN WIPジャパン勤務(翻訳コーディネーター)。米国出身。ポモナ大学(カリフォルニア州)を次席で卒業(日本語専攻)。在学中、同志社大学に留学。卒業後、愛知県で英語教師として勤務。文科省の奨学金生として早稲田大学大学院商学研究科でマーケティングと組織論を研究(3年半)、卒業生総代。学生時代より様々な翻訳に携わった経験を生かすため、07年現在の会社へ。